

近畿地方建設局 道 路 部
配 布 資 料

配布日時	平成12年 3 月21日14時
------	-----------------

件 名	近畿地建橋梁補修検討委員会第2回委員会議事録について
-----	----------------------------

取 扱	_____
-----	-------

配 布 場 所	近畿建設記者クラブ 大手前記者クラブ
---------	-----------------------

問い合わせ	近畿地方建設局 道路部 道路管理課 課長補佐 加藤俊昌 TEL: (代表) 06-6942-1141 [内線4412] (直通) 06-6941-2500
-------	--

近畿地建橋梁補修検討委員会 第2回委員会議事録

1. 日 時：平成12年 3 月17日（金）10：00～12：00

2. 場 所：大阪キャッスルホテル 7階 「松竹の間」
大阪市中央区天満橋京町1番1号（TEL:06-6942-2401）

3. 出席者：松井繁之委員長
小林和夫委員・高田至郎委員・入江琢郎委員
*欠席（佐野正道委員）

4. 要 旨：（1）委員会現地踏査結果報告について

①橋梁概要の集計方法について、現地環境区分における沿岸地域の範囲は、海洋コンクリート構造の指針に基づいて分類するようにとの意見があった。

②コンクリートを叩き落とした箇所数において、環境条件による分布が顕著でなければ、原因は材料か、施工か、設計にあることが推定できるとの意見があった。

③鉄筋位置の1cm近くまでコンクリートの中性化が進行すると鉄筋に錆が発生している事例があり、コンクリートを叩き落とした箇所において、中性化試験とコンクリート強度試験を実施し、データを集計して劣化の傾向を把握するようにとの意見があった。

④損傷度の判定を、構造物本体の性能（安全性→全体的なもの）と他に与える影響度または危険度（第三者被害→局部的なもの）の2つの観点からそれぞれに行えば、補修対策の緊急性がより明確となるの意見があった。

⑤橋全体の耐久性をチェックするには、橋梁カルテに基礎工及び地盤工についても項目を分類整理しておく必要があるとの意見があった。

（2）コンクリート剥落箇所の補修対策について

①補修の効果について、ポリマー系樹脂の多くは乾燥した状態でしか接着性が発揮されないので、補修箇所が常に湿っぽいのか、乾燥しているか等施工性の考慮も必要との意見があった。

②補修材料については、施工前に付着試験で確認してから使用することが必要との意見があった。

③高欄・地覆で強度が低下している部分には、樹脂を含浸させ、断面補修することも考慮すべきとの意見があった。

- ④ドイツの橋は、地覆外側部分が白で塗装され美しく見えることから、補修時には、橋梁の美観も考えるようにとの意見があった。
- ⑤構造物の性能評価から、今回、コンクリートを叩き落とした箇所は、補修対策一覧（その１）工法が妥当との意見があった。
- ⑥コンクリートを叩き落とした箇所が、離散的で局部的なものは補修対策一覧（その１）工法で、ある程度連続的に発生している場合には補修対策一覧（その２）工法の併用が望ましいとの意見があった。
- ⑦コンクリートを叩き落とした箇所のコンクリート強度が、シュミットハンマー測定値で 200 kg/cm^2 以上であれば、腐食劣化速度は速くないとの意見があった。
- ⑧補修対策一覧（その３）は、橋梁メインの構造体、すなわち主桁、橋脚等のコンクリート部材に適用するのが妥当であろうとの意見があった。
- ⑨コンクリートが劣化した箇所は、補修をしても抜本的解決とならず再劣化すると考えるべきで、５年間隔で材料の追跡もしながら、点検間隔も検証するようにとの意見があった。
- ⑩補修材料については、確定できないので、いろいろなものを使用するとともに多種の工法も試用し、比較検討データを収集して、次の補修に活かすようにとの意見があった。
- ⑪道路橋は鉄道橋と異なった荷重条件にあり疲労が多いことから、疲労に対する耐荷力・耐久性を把握するため、路線の荷重特性を監視するシステムが必要との意見があった。

以 上